

第89回 定期演奏会

ワグネル・ソサイエティー・  
OBオーケストラ

The 89th Regular Concert

Wagner Society O.B.Orchestra

December 26, 2021 SUMIDA TRIPHONY HALL

主催：ワグネル・ソサイエティー・OBオーケストラ

# ワグネル・ソサイエティー・OBオーケストラ 第89回 定期演奏会

2021年12月26日(日) 13:30(開場12:45)  
すみだトリフォニーホール

指揮

**寺岡清高**

Kiyotaka Teraoka, Conductor

ピアノ

**藤井一興**

Kazuoki Fujii, pianist

PROGRAM

オール・ベートーヴェン プログラム

序曲「コロラン」作品62

ピアノ協奏曲第5番 作品73「皇帝」(Pf.藤井一興)

交響曲第5番 作品67「運命」

GREETINGS

本日は年末のお忙しい時期にもかかわらず、ワグネル・ソサイエティー・OBオーケストラ第89回定期演奏会にご来場賜り、誠にありがとうございます。皆様方の永きにわたっての温かいご支援に深く感謝申し上げます。

コロナ禍での不自由な生活環境が依然として続いておりますが、私共も練習時の感染対策などに細心の注意を払って準備を進めてまいりました。本日の会場内でも各種の対策を講じておりますので、皆様方にはご理解とご協力をお願いいたします。

さて、今回は指揮者に寺岡清高先生、ピアノ独奏者に藤井一興先生をお迎えし、オール・ベートーヴェン プログラムをお届けします。元々ベートーヴェン生誕250周年を記念して昨年7月に予定されていた演目の延期公演となります。

本来であれば世界的な盛り上がり期待されたメモリアルイヤーから1年遅れての開催となりましたが、この大作曲家が真骨頂を発揮した名曲をごゆっくりとお楽しみください。

ワグネル・ソサイエティー・OBオーケストラ代表 **野原国弘**

◎演奏中にお手持ちの時計のアラーム、携帯電話等が鳴りませんよう、スイッチの解除をお願いいたします。

◎許可のない写真撮影・録音・録画は固くお断りいたします。

◎客席内での飲食は固くお断りいたします。

◎会場内ではマスクを常時着用し、咳エチケットへのご協力をお願いします。



**寺岡清高** 指揮

Kiyotaka Teraoka, Conductor

早稲田大学第一文学部卒業。桐朋学園大学を経て、ウィーン国立音楽大学、イタリア・シエナのキジアーナ音楽院で学ぶ。1997年同音楽院より「フランコ・フェラーラ大賞」を授与され、1年間ジャンルイジ・ジェルメッティのアシスタントとしてロンドン・コヴェントガーデン、ミュンヘン・フィル等に同行し研鑽を積む。これまでに指揮を高階正光、カール・エステルライヒャ、ウロシュ・ラーヨヴィッチ、湯浅勇治、カルロ・ maria・ジュリーニ、ヨルマ・パヌラ、ネーメ・ヤルヴィの各氏に師事。2000年ミトロプーロス国際指揮者コンクール優勝。以降、ヴェニス・フェニーチェ歌劇場管弦楽団、サンクト・ペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団、オランダ放送管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団、イギリス室内管弦楽団を始め、イタリアを中心にヨーロッパ各国のオーケストラへ客演。日本では2001年に大阪交響楽団を指揮してデビュー。これまでに札幌交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、九州交響楽団等を指揮している。2004年1月大阪交響楽団正指揮者に就任。2011年4月以降は常任指揮として、2019年3月まで足かけ15年間、ウィーン世紀末のロマン派音楽を積極的にとりあげ続け、とりわけ2013年6月の第176回定期演奏会における「オール・ハンス・ロット プログラム」は大きな反響を呼び、同年の大阪文化祭賞を受賞した。ウィーン在住。



**藤井一興**

ピアニスト

Kazuoki Fujii, pianist

ピアノを安川加壽子、井上二葉、辛島輝治、萩原智子、作曲を長谷川良夫、南弘明の各氏に師事。

東京藝術大学3年在学中、フランス政府給費留学生として渡仏。

パリ・コンセルヴァトワールにて作曲科、ピアノ伴奏科ともに一等賞で卒業。パリ、エコール・ノルマルにてピアノ科を高等演奏家資格第1位で卒業。その間、作曲をオリヴィエ・メシアン、ピアノをイヴォンヌ・ロリオ、マリア・クルチョ、ピアノ伴奏をアンリエット・ピュイグ＝ロジェの各氏に師事。

1976年オリヴィエ・メシアン国際コンクール第2位(1位なし)。1979年パリのブラジル・ピアノ曲コンクール第1位。1980年クロード・カーン国際コンクール第1位。モンツァ“リサ・サラ・ガロ”国際コンクール第1位。第1回日本国際ピアノコンクール第4位(1位と3位なし)。1981年マリア・カナルス国際コンクール第2位(1位なし)、及びスペイン音楽賞。サンジェルマン・アン・レイ市現代音楽国際ピアノコンクール第1位。1982年パロマ・オ

シエ・サンタンデール国際ピアノコンクール入賞 第3回グローバル音楽奨励賞。第10回京都音楽賞実践部門賞。

レコード・CDではメシアンのラ・フォヴェットゥ・デ・ジャルダンやイゴール・マルケヴィッチ作品集、武満徹作品集、ドビュッシーシリーズなどをリリースしている。また、作曲家としても、フランス文化省から委嘱を受け、その作品が演奏会や国際フェスティバルで演奏・録音され、毎年、自身のリサイタル等で新作を発表している。その他、世界初のフォーレのピアノ全集の校訂を担当し、1~5巻(全5巻完結)を春秋社より出版している。

現在、東邦音楽大学大学院教授、東邦音楽総合芸術研究所教授、桐朋学園大学特任教授、東京藝術大学講師。



## ワグネル・ソサイエティー・OBオーケストラ

“慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラ”の出身者が中心となって1974年に設立、同年冬に第1回演奏会を開催して以来、毎年1～2回の演奏会を行っている。最近のレパートリーは、ハイドン、ベートーヴェン等の古典から、ブルックナー、マーラー等の後期ロマン派、フランス・アメリカ近現代音楽、ヒンデミット、コダーイ等の異色作品まで幅広い。

設立当初は長年にわたって慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラの常任指揮者を務めた東京藝術大学名誉教授、故・中山富士雄氏の薫陶を受けたが、その後は常任指揮者をおかず、演奏会ごとに様々な指揮者の指導のもとに活動をしている。これまで定期演奏会

では中山富士雄、團伊玖磨、山本七雄、ロバート・ライカー、朝比奈千足、斎藤純一郎、飯森範親、三原明人、藤崎凡、新田ユリ、飛永信康、新通英洋、鈴木清三、中川賢一、矢崎彦太郎、大塚正昭、川本貢司、田久保裕一、横島勝人、武藤英明、小泉和裕、山田和樹、角田鋼亮、本名徹次、寺岡清高、井崎正浩、松尾葉子、飯守泰次郎、大山平一郎、金洪才、佐伯正則、田部井剛の各氏に指揮をお願いした（初出演年代順）。

定期演奏会の他にも他合唱団体との特別演奏会、(公社)日本アマチュアオーケストラ連盟(JAO)の加盟団体として連盟主催行事への有志参加など、意欲的な演奏活動を続けている。

WSO ホームページ <http://www.wagner-ob.jp/> (第88回までの演奏会の記録もこちらよりご覧いただけます)

### ◆プログラムノート

## オール・ベートーヴェン プログラム

2020年はベートーヴェン誕生250年の記念年でした。プロ、アマ問わず、ベートーヴェンの楽曲を全世界で演奏しお祝いするはずでしたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、我々の演奏会も延期せざるを得ませんでした。幸い本家のドイツでも、ベートーヴェンイヤーを1年延ばし「2020+1」とすることになりましたので、我々も12月に駆け込みで行うこととし、オールベートーヴェンプログラムが実現しました。

今回演奏する、序曲『コロラン』、ピアノ協奏曲第5番『皇帝』、交響曲第5番『運命』は1807年から1809年に完成されており、ベートーヴェンは30歳代後半、作家ロマン・ロランが「傑作の森」と称した名曲群に属します。

### 序曲「コロラン」作品62

ウィーンの宮廷詩人で劇作家であったハインリッヒ・ヨーゼフ・コリンが1804年に発表した戯曲『コロラン』に、ベートーヴェンが自ら進んで作曲したのがこの序曲です。戯曲は1805年になっても上演されていましたが、この演劇がまったく音楽も付けずに上演されているのを残念に思ったベートーヴェンが、スケッチもせず、かなり即興的に書きあげたようです。完成は1807年。同年3月のロプコヴィッツ侯爵の私邸で開かれた予約演奏会で、ベートーヴェン自身の指揮によって初演され、翌年1月にウィーン美術工芸出版社から出版されています。

戯曲『コロラン』は、ローマ神話の英雄コロラヌスの悲劇を題材にしています。紀

元前5世紀のローマを舞台に、国外での戦争に勝利し凱旋したコロラヌスは、陰謀により国を追われ、隣国の将軍となってローマに攻め入るも、母や妻に説得され、最後は謀殺されてしまいます。正義に対して強い信念をもつベートーヴェンは、コロラヌスに共感し、悲劇的な響きとして好んで用いた「ハ短調」によって作曲されています。当演奏会でも取り上げる交響曲第5番と同じ調性です。

この序曲は戯曲に付けて舞台上演されたという記録はありませんが、演奏会用序曲として、ベートーヴェンの数ある序曲の中で、最も早くから幅広い聴衆に歓迎されたもののひとつです。

### アレグロ・コンブリオ 4分の4拍子、ハ短調

うごめくような第一主題(コロラン)と、優美な第二主題(母や妻)を軸に、終始緊張感を漂わせながら展開します。ピッツィカート(3音(コロランの死)で終結します。ゲネラルパウゼ(全部の楽器が休止すること)の多用が劇的効果を高めています。

### ピアノ協奏曲第5番 作品73「皇帝」

ピアノ協奏曲全5曲の最後となる作品で、初演の独奏ピアノを自身ではなく他のピアニストに委ねた唯一の作品でもあります。1808年12月22日にアン・デア・ウィーン劇場に於いて、「ピアノ協奏曲第4番ト長調」、「交響曲第5番『運命』」、「同第6番『田園』」などの新作の初演を兼ねた4時間に及ぶ長

大な演奏会を開いた直後から、スケッチに取り掛かったとされています。

1809年5月、ナポレオン率いるフランス軍がウィーンを攻撃、聴覚に異常をきたしていたベートーヴェンにとっては大砲の音はかなりこたえたようで、しばらく作曲を中断していましたが、フランスの占領軍がウィーンを解放したのを機にバーデンに避暑に出向き、弦楽四重奏曲第10番「ハープ」、ピアノソナタ第24番「テレーゼ」、同第25番「かっこう」とともに書きあげました。

公開初演は1811年11月にライプツィヒのゲヴァントハウス演奏会で、フリードリヒ・シュナイダーの独奏により行われました。1812年2月にはウィーンのケルトナートーア劇場にて、ベートーヴェンの弟子の一人であるカール・チェルニーの独奏によるウィーン初演が行われました。当時はあまり評判が良くなかったのか、それ以降ベートーヴェンの存命中には演奏されなかったようです。

各楽章の解説はファゴットの後藤一宏さんにお問い合わせください。

## 第1楽章 Allegro 変ホ長調

オーケストラの全奏に促されるようにピアノが豪華絢爛にカデンツァ風に入場します。序奏は簡潔に7小節だけで、オーケストラによる勇壮な第一主題が提示されます。

第二主題は同主短調の変ホ短調でボンボンと独り言の様に始まりますが、すぐに長調に転じて2本のホルンによって狩りを思わせる旋律に変わります。その裏のティンパニは、変ロと変ホの2つの音しかないのであたかも2本のホルンとともに旋律を三重奏しているように聴こえます。

ベートーヴェンは自らが独奏者として演奏しないことを想定していたのか、それまでの常識であったカデンツァがありません。

## 第2楽章 Adagio un poco mosso ロ長調

♭3つの変ホ長調から#5つのロ長調への転調は画期的ですが、変ホの異名同音である嬰ニで始まる静かな変奏曲です。さるマエストロの指摘では、午前3時から5時までの時間の表現との説もあります。

問題は第3楽章の変ホ長調にどうやって戻るかです。ロ長調で完全終止した時にファゴットだけがロ音を1小節伸ばし、2小節目であたかも夜明けを告げるように半音下げ、その変ロ音を2本のホルンが引き継いで伸ばし続けます。変ロ音は変ホ長調の属音なので転調準備完了です。この突然の半音スライド転調は、メンデルスゾーンがヴァイオリン協奏曲で使ったほか、のちにプロコフィエフが好んで使っています。ホルンの変ロの保続音に誘われてピアノがゆっくりと第3楽章のテーマを2回予告します。この3小節は第3楽章への序奏とも考えられます。

## 第3楽章 Rondo Allegro 6/8 変ホ長調

そしてピアノが単独で唐突に最強奏で第3楽章に突入します。その間2本のホルンは11小節間も変ロ音をオクターブで伸ばし続けなければなりません。主題はシンプルな変ホ長調の主和音の分散和音ですが、ピアノの右手は3/4拍子的、左手は6/8拍子の3拍目と6拍目が強調された、聴く人を錯覚させる構造になっています。

終結部にピアノがカデンツァ風に静かに演奏する裏で、ティンパニが変ロ音を保続音として寄り添うのが印象的です。音楽が静かに止まりそうになると、ピアノが突然覚醒し、オーケストラのスイッチを入れ、華々しく曲を閉じます。

## 交響曲第5番 作品67「運命」

「ダダダダーン」で始まる『運命』はあまりにも有名ですが、全楽章を通じて聞いたことがない方もかなりいらっしゃるようです。

『運命』は交響曲第3番『英雄』完成直後の1804年頃に作曲が開始されていますが、1803年のスケッチブックにも着想がすでにあったようです。しかし作曲はほどなく中断されます。1804年から1806年にかけて、ベートーヴェンは、かつての教え子であり好意を寄せたことのあるヨゼフィーネ・フォン・ダイム伯爵未亡人との間に強い愛情が芽生えます。激しく重厚なモチーフをテーマとした『運命』は退けられ、交響曲第4番やラズモフスキー弦楽四重奏曲、ヴァイオリン協奏曲などが作曲されました。1806年頃、恋もひと段落、作曲を再開し、1808年には完成しました(1807年とする説もあります)。

初演は1808年12月22日、ウィーンのアン・デア・ウィーン劇場にて、ベートーヴェン自身の指揮によって行われました。この演奏会では『田園』が交響曲第5番、『運命』は第6番となっていました。出版の際に入れ替わりました。献呈は第6番『田園』とともにロプコヴィッツ侯爵とラズモフスキー伯爵となっています。

この楽曲が『運命』と呼ばれるようになったのは、弟子のアントン・シントラーが、「ベートーヴェン自身が第1楽章の楽譜の冒頭を指差して、『このようにして運命は扉を開くのだ』と言って作品を説明してくれた」とベートーヴェンの伝記の中で紹介したことに由来しています。現在では、このエピソードはシントラーの捏造とされています。「ダダダダーン」4つの音はベートーヴェン自身が発明したものではなく、それ以前にも受難曲、オラトリオ、オペラなどいろいろな作曲家の

作品で、運命あるいは運命的なものを示す部分でよく用いられていました。『運命』は「ダダダダーン」というモチーフで全楽章を紡ぐ「絶対音楽」ですが、同時に発表した『田園』は対照的に自然の情景を描く「標題音楽」なのは面白いですね。

現代に暮らす我々は、ベートーヴェンが『運命』の後に第9番『合唱付き』などを作ったことを知っていますが、当時の聴衆はこの運命の動機で始まる曲を聞いた際、どんなことを感じたのか、そしてハ長調の勝利の凱旋で終わる第4楽章を聞いた時、どのような高揚感を得たのか。タイムマシンがあったら是非聞いてみたい気がします。

各楽章の構成は以下の通りです。

- 第1楽章** Allegro con brio  
ハ短調 2/4拍子 ソナタ形式
- 第2楽章** Andante con moto  
変イ長調 3/8拍子  
2つの主題を用いた変奏曲
- 第3楽章** スケルツォ Allegro  
ハ短調 3/4拍子 3部形式
- 第4楽章** Allegro  
ハ長調 4/4拍子 ソナタ形式

(Vn. 河西 格)

### ◆今後の演奏会のお知らせ

#### 第90回定期演奏会

2022年7月10日(日) 昼公演  
ミューザ川崎シンフォニーホール  
指揮:井崎 正浩

#### 第91回定期演奏会

2023年1月14日(土) 昼公演  
ミューザ川崎シンフォニーホール  
指揮:川本 貢司

※新型コロナウイルス感染拡大の懸念があるため、  
曲目は未定です

# ワグネル・ツサイエティー・OBオーケストラ

## トレーナー (敬称略)

櫻屋敷 滋人 (Orch)、澤田 和慶 (弦)、野田 祐介 (木管)、広田 智之 (木管)  
日橋 辰朗 (金管)、坂東 裕香 (金管)、前田 茂 (打)

## 出演者

<b>Violin</b>	長井 英信	鈴木 惇也 ☆	<b>Flute</b>	<b>Bassoon</b>	清水 亮一
青山 千裕	野呂 篤志	所 多恵子 ☆	畠山 拓也 ◎	植田 隆彦	信澤 賢一 ◎
新谷 美知子	原 響子	<b>Violoncello</b>	華山 宣胤	奥山 薫	<b>Trombone</b>
岩崎 潔	三井田 千晶	大森 重幸	荻野 由樹子	後藤 一宏 ◎	岡田 茂朗
岩本 直隆 ◎	村橋 温子	木崎 博	<b>Oboe</b>	森岡 侑希	松井 潤 ◎
氏家 多恵子	天野 源太郎 ☆	中嶋 脩	後藤 由美子	横田 由実	石渡 聖司 ☆
大島 正規	宇磨谷 周子 ☆	信岡 有紀	白坂 大知 ◎	柳谷 良介 ☆	<b>Percussion</b>
大福谷 泰子	桑原 春香 ☆	山内 美佐子	高浪 雅洋	<b>Horn</b>	青木 清孝 ◎
河西 格	島崎 未帆 ☆	河元 哲史 ☆	野原 国弘	太田 奈央	園田 陽子
鈴木 蘭 ㊟	<b>Viola</b>	<b>Contrabass</b>	畠山 亜紀子	館野 和佳奈 ◎	磨 毅
給田 俊哉	柴田 隆	浦尾 大	福田 有花 ☆	池田 知之 ☆	
田崎 佳子	高橋 寛宜 ◎	片岡 慧子	<b>Clarinet</b>	尾形 舜 ☆	
土屋 暁	土屋 真一	倉持 清 ◎	秋山 照雄	田中 梨紗 ☆	
津村 佳奈	中谷 寛	中島 隆男	石川 富士枝	<b>Trumpet</b>	
鶴田 明子	浅沼 彩乃 ☆	吉野 和雄	彌永 浩太郎	糸谷 良	㊟コンサートミストレス
東畑 賀久子	安宅 未来 ☆		志村 美樹 ☆	大西 貢司	◎パートトップ

☆賛助出演

## 国内諸担当

### 幹事会

代表=野原 国弘 運営委員長=河西 格 トップ会議長=松井 潤

演奏会マネージャー=和谷 彩古 会計=村橋 温子

インスペクター (弦)=野呂 篤志 インスペクター (木管)=彌永 浩太郎

インスペクター (金管・打楽器)=渡部 ちひろ

会計監査 平尾 嘉三

### 運営委員

JAO 担当代表補佐=稲葉 光亮 広報=青山 千裕、浅野 慶子、石川 富士枝、松井 潤

厚生=高山 琴音、館野 和佳奈、村上 大、山下 俊輔、和谷 彩古 会計補佐=山内 美佐子

チケット=中谷 寛 プログラム=小林 真理 ステージマネージャー=久保田 郁子

フロアマネージャー=長井 英信 演奏会マネージャー補佐=須賀 拡史

録音・録画委員=大西 貢司、北原 利行 楽譜委員=大西 貢司、各務 泉、柴田 由紀子

楽器=青木 清孝、浦尾 大 練習場=河西 格、後藤 由美子、鶴田 明子、東畑 賀久子

## 賛助会員ご芳名 (ご入会順)

【特別賛助会員】 マエストローラ音楽院様 若尾 裕久様

【賛助会員】 成澤 良一様 渡部 哲夫様 藤田 正厚様 平野 綏様 白石 寿太郎様  
松井 哲夫様 駒村 多賀子様 平池 邦雄様 日原 行隆様 秋山 俊彦様

賛助会員募集のご案内 私どもの活動を資金面でご支援いただく「賛助会員制度」をご案内申し上げます。

◎年間会費 (1口1万円 9月~翌年8月): 特別賛助会員2口以上 賛助会員1口

◎特典: 定期演奏会等当団主催の演奏会へのご招待

◎お申込み・お問い合わせ オークストラ窓口 office@wagner-ob.jp